



東京音楽コンクール  
入賞者リサイタル

NORHIRO MOTOYAMA  
PIANO RECITAL  
-L'Émotion sous le masque-

©Shinji Ito

# 本山乃弘ピアノリサイタル

— 情動との対峙 —

2021年 **5月16日**(日)

東京文化会館小ホール

開演14:00 (開場13:15) (JR上野駅公園口前)

※本公演は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、座席数を半分程に制限し、開催いたします。

◎入場料 (全席指定) ※未就学児入場不可

一般3,500円(前売り3,000円) 25歳以下2,000円(前売り1,500円)

ペア6,000円(前売り5,000円) トリオ9,000円(前売り7,500円)

(東京文化会館友の会会員は各10%引き)

●プレイガイド(1月15日発売)

東京文化会館チケットサービス:03-5685-0650 [www.t-bunka.jp/tickets/](http://www.t-bunka.jp/tickets/)

プロアルテ ムジケ:03-3943-6677 [www.proarte.jp](http://www.proarte.jp)

主催:本山乃弘ピアノリサイタル実行委員会

共催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

後援:東京藝術大学音楽学部同声会 / 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校響親会

一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ) / 株式会社ハンナ(月刊ショパン)

マネジメント・お問い合わせ:プロアルテ ムジケ Email: [info@proarte.jp](mailto:info@proarte.jp)

## Program

ベートーヴェン:

ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 Op.13「悲愴」

Beethoven: Klaviersonate Nr.8 c-Moll Op.13 "Pathétique"

ベートーヴェン:

ピアノ・ソナタ 第18番 変ホ長調 Op.31-3「狩」

Beethoven: Klaviersonate Nr.18 Es-Dur Op.31-3 "La Chasse"

ラヴェル:

高雅にして感傷的なワルツ

Ravel: Valses nobles et sentimentales

ショパン:

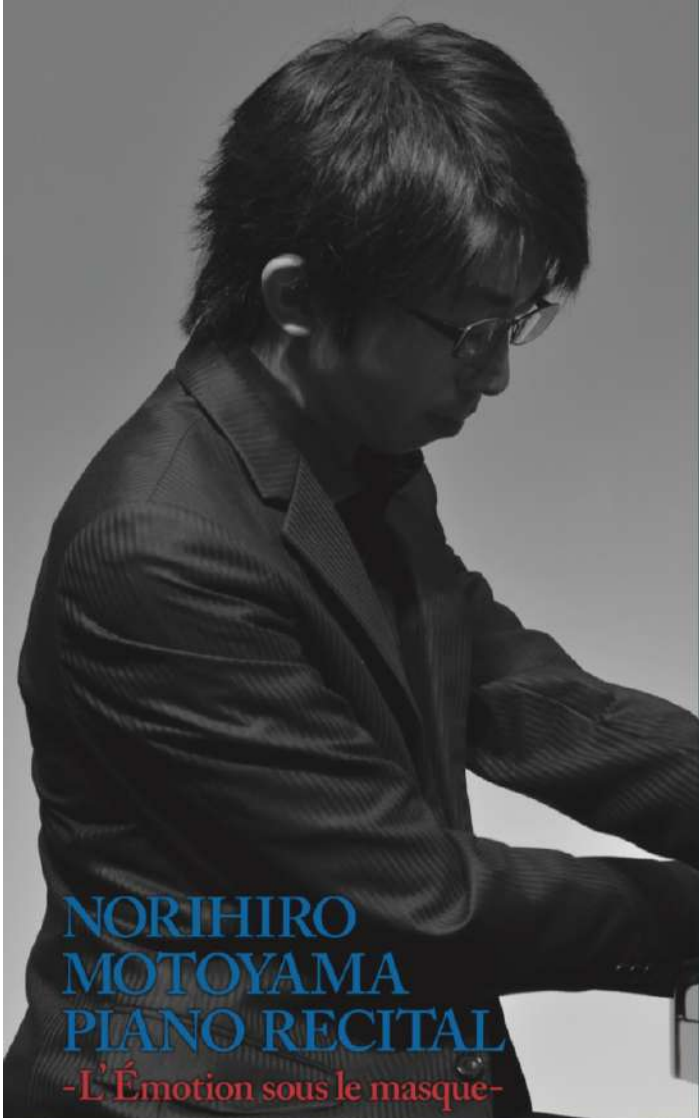
2つのノクターン Op.62

Chopin: Deux Nocturnes Op.62

スクリャービン:

ピアノ・ソナタ 第2番 嬰ト短調 Op.19「幻想」

Scriabin: Piano Sonata No.2 in G sharp minor Op.19 "Sonata-Fantasy"



NORHIRO  
MOTOYAMA  
PIANO RECITAL  
-L'Émotion sous le masque-

## 本山乃弘君のこと

本山乃弘君とは高校、大学で私のクラスに来て以来の付き合いですが、当初から音楽に対する情熱と思考の深さ、加えて粘り強さに注目していました。普段の物腰柔らかな様子とはまた違った内面の在り様が反映されていたと言えます。

それに輪をかけて強く感じたのは偉大な音楽の演奏を通して伝わる彼の気高さです。勉学の途上に襲われた手の厄介な症状もそれらを挫けさせることはありませんでした。実に綿密に対処と治療を施し、長い時間をかけて辛抱強く克服した様子は美談では決してなく、一途に音楽、ピアノ演奏に賭ける彼の心の強さの表れと私は受けとめています。それら全てを大きく認められたからこそ、フランスでフランス・クリダ先生、アルド・チッコリーニ先生などの偉大な先達から教えていただいたのだと確信しています。今回の素晴らしいプログラムには彼の美感に基づく意欲が大きく映し出されています。どの曲からも本山君の目指す境地がお客様へ伝わることを心から祈る次第です。

東京藝術大学名誉教授  
植田 克己

### —情動との対峙—

音楽を心の支えとする私にとって、毎回の演奏は、作曲家と聴いてくださる皆さまとの間に身を置き、時代や価値観を超えて心をつなぐ交流の試みです。

わたしたちの心の中に日々生まれる感情、情緒、気持ち、情動、想いといったものは、一部は言葉として発せられたり、態度や行動、顔の表情…といった形で表に現れます。一方で、表に出されないまま、心の中や思考の中で、浮かんで消えたり、大切にしまわれたりしているものもたくさんあるのではないのでしょうか。

今回は、ひとの心に眠る様々な情動と真正面から向き合い、血を通わせて音にのせる事に焦点を当て、そうしたエネルギーと表情に満ちた名作を並べました。

前半はベートーヴェンの有名な悲愴ソナタと、対照的に明朗でワクワクする18番のソナタを。後半は、人生と愛の周辺にある美しくもはかない何かがたくさん詰まった作品達です。

頭で理解しなくとも、心で直に感じることでできる音楽に身を任せてひたひたながら、こころをリセットしたり、想いをめぐらせたり…思い思いの時間をお楽しみいただけたら幸いです。

本山乃弘

### 本山乃弘 (もとやまのりひろ)

1983年長崎県生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校及び同大学卒業。卒業後2年半の間は、在学中に右手に発症したフォーカル・ジストニアのリハビリと、左手による演奏活動に専念。その間に巨匠アルド・チッコリーニ氏の知遇を得て2008年秋に渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院の各課程首席を経て、コンサーティスト高等課程を審査員満場一致にて修了。2009-2012年度ザレスキ財団奨学生。2015年同音楽院専攻科修了。ピアノを福田伸光、川口由紀子、今井顕、植田克己、F.クリダ、A.チッコリーニ、P.ブラシェーの各氏に、室内楽をゴールドベルク＝山根美代子、松原勝也の両氏に師事。歌曲伴奏をE.アメリック & J.デームス他、多くのエキスパートの下で学ぶ。ショパン国際ピアノコンクールin ASIA コンチェルトC部門金賞・コンチェルト賞、第12回東京音楽コンクール第3位など多数受賞。2003年皇太子殿下ご臨席の下、オーチャードホールにてラトヴィア国立交響楽団と共演した他、これまでポーランド国立クラクフ室内管弦楽団、九州交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団等をはじめ、国内外の多くのオーケストラと共演。2004年のリサイタルデビュー以来、日欧各地にてリサイタルや音楽祭に出演を重ねている。ソロにとどまらず、アンサンブルの分野でも多くの共演者より信頼を得ている。

帰国後は指導にも力を注ぎ、多くのコンクールで審査員を務める他、ピティナ・ピアノコンペティションのアナリーゼ楽譜執筆や課題曲CD収録に携わる。

2019年10月4日(金)公開、映画『蜜蜂と遠雷』にて高島明石役(松坂桃李)のピアノ演技指導を担当。

現在(2021年3月末まで)、東京藝術大学音楽学部非常勤講師。

©公式ウェブサイト <http://norihimotoyama.com>

